

## ホスピス・緩和ケアフォーラム 2014 in 甲府

平成26年11月30日 甲府富士屋ホテルにおいて「ホスピス・緩和ケアフォーラム 2014 in 甲府」が開催された。山梨県にホスピス・緩和ケアをより広めたいという思いから、県内の多くの緩和ケア関係者の協力を得て準備が進められた。

プログラムは「地域でのちをみつめる」というテーマに基づき、特別講演は県外で地域医療を大切にされている伊藤真美先生、シンポジウムは山梨県各地域での現状を伝えるために4地域の医



ハンドベルのミニコンサート



アロマハンドマッサージ

師・看護師が担当された。当日は276名と多

くの方が参加され、熱心に聴講され、質疑応答では参加者と全演者による活発な意見交換がなされ関心の高さがうかがえた。

また、ハンドベルのミニコンサートや緩和ケア認定看護師らによるロビーでのアロマハンドマッサージも参加者にとって日常から離れて「癒しのひととき」となった。



### 特別講演

これからの「医療」は「介護」と「福祉」とともに  
～有床診療所での緩和ケアの実践報告から～

伊藤 真美 (花の谷クリニック 院長)

### シンポジウム

「地域でのちをみつめる」

山田 和美 (山梨県立中央病院地域連携センター 保健師)

井澤伸一郎 (ほくと診療所 副院長)

松土はつみ (山梨市立牧丘病院 訪問看護室)

土地 邦彦 (玉穂ふれあい診療所 院長)

参加者 276名

## ホスピス・緩和ケアフォーラム 2014in 甲府 に参加して

山梨県立中央病院 緩和ケア病棟看護師 中澤 寛子



平成26年11月30日に甲府富士屋ホテルで開催された「ホスピス・緩和ケアフォーラム 2014 in 甲府」に参加しました。

伊藤真美先生の特別講演を聴いて、千葉にある花の谷クリニックは地域の診療所として、地域住民にとって馴染みがあり、かつ安らぐ場所であることを目標としていることを知り、伊藤先生の熱い信念を感じました。このような安らぎのある診療所の存在はとても大きく、診療所に通う患者さんや家族の痛みや辛さを解放し、癒しや安心につ

ながっていくのだと感じました。

シンポジウムでは、それぞれの施設の状況や地域医療でどのような活動をしているのか、土地先生や井澤先生、山田保健師さん、松土看護師さんから話を聞き理解を深めることが出来ました。多職種間で協力し、それぞれの持ち味を生かして、役割を本領発揮すること、地域で人をつなぐこと、支えることが大切であるということ、まさにシンポジウムのテーマである「地域でのちをみつめる」ということを振り返るきっかけとなりました。また、花の谷クリニックも魅力的でしたが、山梨にも魅力溢れる診療所や、クリニック、病院があることをあらためて感じました。

先生方の話を聴いて、患者さんと家族が痛みや辛さをとって、どのように生活をしたいのか、その人らしさを大切にするには、どのような支えが必要なのか、日々学び考えていきたいと思います。私は今病院の緩和ケア病棟で勤務をしていますが、山梨のハートの熱い多くの職種の方達と協力して地域に住む人達を支えていきたいと考えます。

最後に、特別講演とシンポジウムの間で行われたミニコンサートでは、ハンドベル演奏を聴きました。幾重に重なったベルの音色に驚き、和み、ベルの持つ世界観の中に引き込まれ、心地良いひとときを過ごすことが出来ました。

## ソーシャルワーカーのスキルアップを目指す 実践セミナー



2014年度は京都市に於いて「かけがえのない時間を大切に過ごすための意思決定支援」をテーマに講演とワークショップが実施されました。

- ・実施日：2014年10月12日（日）
- ・場所：メルパルク京都（京都市）
- ・基調講演：京都府立大学 細川 豊史先生
- ・ワークショップ講師：福地智巴氏 田村里子氏
- ・参加者：53名

\*当日の資料集はホスピス財団ホームページで閲覧できます。

## 2014年度 ソーシャルワーカーのスキルアップを目指す 実践セミナーに参加して

東京医科大学病院 総合相談・支援センター  
認定医療社会福祉士 品田 雄市

2014年10月12日メルパルク京都において、上記セミナーに参加した。基調講演は、『かけがえのない時間を過ごすための早期からの緩和ケア—知ってほしい痛みのお話—』と題し、京都府立医科大学の細川豊史先生よりお話を頂いた。先生の貴重な経験を踏まえた「痛み」についての講義で、今後に向け医療ソーシャルワーカーが地域における緩和ケア実践の担い手として何をすべきかに触れ、体系的な意思決定支援と、地域に根差した在宅医療構築に努力するよう期待を込めて熱くまたユーモアを交えて話して下さった。

午後からは、『かけがえのない時間を過ごすための意思決定支援—緩和ケアの現場から—』と題して一般社団法人 WITH 医療福祉実践研究所が・緩和ケア部部長の田村里子先生から講義を受けた。座学とグループワークを交互に行なう形式で進められ、がん患者・家族が立つ意思決定支援の局面にソーシャルワーカーがどのように取り組むのかについて深い学びの機会となった。

ペーパー事例を提示され、そのソーシャルワークアセスメント、プランニング、インターベンションをグループ毎に進めていくことと全体でのシェアにより、意思決定支援が、ソーシャルワークの価値実践としてこれまでも担ってきたものであることを確認し、それをさらに質の高い支援とする為に我々が留意していく立ち位置・プロセス・時間・専門家としての思考の流れに気づくことができた。

会場には、全国から約50名の医療ソーシャルワーカー達が集い、学び合える大切な時間を共有できた。今回の事例では代理意思決定支援が取り上げられたが、日頃の実践を省察し、それを言語化する契機となり、意思決定支援を巡る医療倫理的課題を含め、患者本人にとっての最善に辿りつくための支援の重要性を改めて認識し、ソーシャルワーカーとしての機能と役割をいかに発揮すべきか参加者1人ひとりが心に刻むことのできたセミナーであった。

## グリーフ&ビリーブメントカンファレンス



2014年度は第6回目として2015年1月17日（土）に関西学院大学梅田キャンパス開催されました。この日は阪神淡路大震災の20周年であり、参加者は特別の思いで聴講されたように感じられました。山本佳世子先生と石田真弓先生の講演、中西健二先生の事例検討がなされました。

- ・参加者：84名

\*当日の資料集はホスピス財団ホームページで閲覧できます。

## 第6回 グリーフ&ビリーブメントカンファレンス に参加して

関西学院大学 人間福祉研究科 人間福祉専攻 博士課程前期課程1年  
(元 淀川キリスト教病院ホスピス看護師) 稗田 朋子



私はカンファレンスに参加して、グリーフケアに携わる者の苦しみや願いは本質的に同じであること、そのような気持ちを分かち合う時間が与えられたと感じています。

山本先生には、知識や技術が通用しないケアの限界において、それでもなおグリーフの只中にある人の傍にとどまる“勇気”や“覚悟”について考える機会が与えられました。特に、グリーフケアは、できない自分をありのまま認める、弱さをさらけ出すこと等、自分自身の在り様を見つめることから始まるということを学びました。また、石田先生には、遺族外来の現状から、適切な診断により介入へ繋げることの意義、しっかりと寄り添うために医療者が果たすべき役割を教えていただきました。最後に、中西先生には、事例検討を通して、チームでの関わりの大切さ、対象のグリーフだけに焦点を当てるのではなく、その人の人生の歩みをサポートする視点、遺された家族の力を信じてその場にとどまる姿勢等、現場の苦悩や真摯に向き合い寄り添う姿勢を教わりました。

援助者は、目の前で苦しむ人を前に何もできない状況に直面し、無力さを感じます。また、援助者自身も、何らかのグリーフを抱えています。同じように弱さをもつ人間が、上下関係でなく同じ歩幅で歩む姿勢、それがグリーフケアの本質であるように思います。その本質を忘れず、1人の人間として、援助者として、歩んでいきたいと思ひます。また、同じような思いで歩む仲間が増えていくことを願っています。

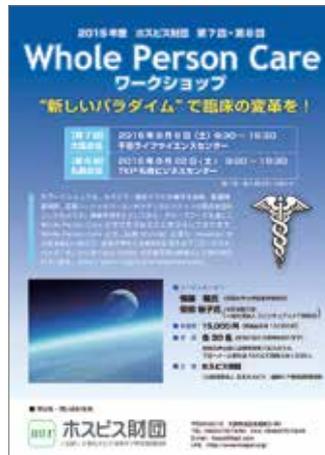
## お知らせコーナー

## 第7回・第8回 Whole Person Care ワークショップ

好評の Whole Person Care ワークショップが本年も大阪と札幌で開催されます。多数のご参加をお待ちしております。

- 第7回 大阪会場  
2015年8月8日(土) 9:30～19:30  
千里ライフサイエンスセンター
- 第8回 札幌会場  
2015年8月22日(土) 9:30～19:30  
TKP 札幌ビジネスセンター

(第1回～第8回は同じ内容です)  
詳細はホームページをご覧ください。



## 第11回 ASIA PACIFIC HOSPICE CONFERENCE in TAIPEI

隔年に開催されている、APHC が、台北にて開催されます。奮ってご参加ください。詳細は以下のホームページをご覧ください。

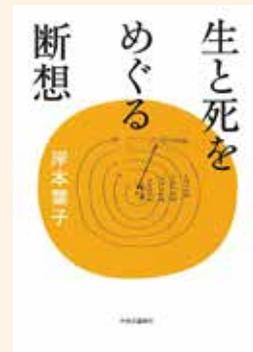
<http://www.2015aphc.org/index.php?ln=en>

検索

## ホームページのアクセスが30万回を超えました！

ホスピス財団ホームページのアクセス回数が、30万回を超えました。多くの皆様に訪問していただき感謝いたします。これからも、皆様のお役に立つように内容の充実をはかりたく願っております。

## 新刊・近刊紹介

生と死をめぐる断想  
岸本葉子

死んだらどこへ行くのか？ 何もなくなるのか …古来より、投げかけられている質問である。

答えは誰も分らない。末期がんの患者と家族はもとより、ホスピス・緩和ケアに携わるものにとっては、とりわけ関心の高いことである。著者は、自らががんを患ったという体験から、古今東西の死生観に関する著作をひもときながら思索を深めている。そして断想という名が示す通りに、その時々でテーマも多岐に亘っている。死生観という深遠なテーマへ、今一度思いを馳せさせる格好の教材である。

(中央公論新社 1620円 2014年11月刊)

こんにちは  
ホスピス社会医療法人 若竹会  
つくばセントラル病院  
緩和ケア病棟

緩和ケア科部長 長田 明

私たちの病棟は 2000年10月に茨城県牛久市に開設された院内病棟型、20床の緩和ケア病棟です。窓からは筑波山の全景と牛久大仏（高さ世界一）の頭部だけ望むことができます。都心に近いにもかかわらず、豊かな自然に囲まれた穏やかな土地柄です。あまり知られていませんが、茨城県は北海道に次ぐ日本で二番目の農業生産出荷額を誇る農業県です。患者さんにも畑仕事を生きが

スイカを栽培



いにしている方がたくさんいらっしゃいます。昨年は患者さんの発案で病棟のガーデンにトマトとスイカを栽培しました。へちまとゴーヤのグリーンカーテンも作

りました。みんなで何かをいっしょに育てていくことのすばらしさを体験しました。日々の生活の中に安心と生きがいを感じられる、ホスピスマインドにあふれた穏やかな病棟でありたいと願っています。

今後の課題としては、在宅診療をより充実させたいと考えています。現在も病棟の医師が直接ご自宅を訪問して、在宅療養のお手伝いをしたり入院相談をしたりしています。在宅診療のニーズはますます増加してくると予想され、体制の充実を計画しています。また、茨城県内ではここ数年の間に、地域の癌診療の中心となるような大病院に緩和ケア病棟が次々と新設されていきます。これらの地域や新病棟にホスピスマインドを浸透させていくのも我々の大切な役割のひとつと考えています。今後ともよろしく願いいたします。



クリスマス

ホスピス財団  
2015年度 事業計画書 (概略)  
(2015年4月～2016年3月)

1. ホスピス・緩和ケアに関する多施設共同研究 (公募 3件)
2. 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する調査研究【J-HOPE III】(第3次調査・第4年度)
3. 『ホスピス・緩和ケア白書 2016』(研究論文集+データブック)作成・刊行
4. 非がん疾患の終末期医療の実態に関する調査 (第2年度)
5. がん診療拠点病院の緩和ケアチームの基準 2015年度版の作成
6. 意思決定支援をめぐる患者・家族のニーズならびに課題の把握と、効果的な支援方法の検討
7. ソーシャルワーカーのための緩和ケアスキルアップセミナー(公募)
8. ホスピス・緩和ケアボランティア研修セミナー (公募)
9. 第7回、第8回 Whole Person Care ワークショップ
10. グリーフケア研修セミナー (公募)
11. 高齢者介護施設等の看取り教育研修
12. ホスピス・緩和ケアフォーラム 2015
13. 『これからのとき』等、普及啓発のための冊子増刷
14. 終末期に関する手引き用の冊子作成
15. Whole Person Care 日本語版発行
16. 一般広報活動
17. アジア太平洋ホスピスネットワーク (APHN) 関連事業
18. 日・韓・台 第2期 共同研究事業

寄付者一覧 (2014年9月～2015年2月 順不同、敬称略)

(個人) サダヒロ リョウイチ

村上 千鶴

大谷 正身

匿名 1名

(団体) 阪神聖書研究会

高野山大学

遺愛女子中学高等学校

日本メノナイトプレザレン教団 石橋キリスト教会

新規賛助会員 (2014年9月～2015年2月 順不同、敬称略)

(個人) 藤島 京子

清水 汎

福山 忠男

武田 美帆

二見 典子

匿名 2名

(団体) 医療法人 パリアン

医療生協 わたり病院

アステラス製薬株式会社

宗教法人 在日本南プレスビテリアンミッション

寄付・賛助会員のお願い

私たちの活動は、全て、皆さまからのご寄付と賛助会員の方々の会費に拠っております。どうか私どもの活動の趣旨をご理解いただき、ご寄付・賛助会員のお申し込みを頂けるようお願いいたします。

また、「遺贈」による寄附もぜひご考慮下さい。当財団は、三井住友信託銀行と「遺贈による寄付制度」について提携しております。公益法人への遺贈に抛る寄付財産は、原則として相続税の非課税財産となります。

上記ご寄附、賛助会員、遺贈に関するお問い合わせは  
06-6375-7255 です。

ホスピス財団  
2015年度収支予算書 (概要)

2015年4月1日から2016年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	2015年度予算	摘 要
<b>【経常収益】</b>		
①基本財産運用益	3,760	
②受取寄付金	30,000	
(内訳) 賛助会費収入	27,000	
一般寄付金収入	3,000	
③雑収益	1,515	
経常収益計 (A)	35,275	
<b>【経常費用】</b>		
①事業運営費	38,750	
(内訳) 公益事業 1	14,985	ホスピス・緩和ケアに関する調査・研究事業
公益事業 2	9,357	ホスピス・緩和ケア従事者に関する教育事業
公益事業 3	10,515	ホスピス・緩和ケアに関する普及・啓発事業
公益事業 4	3,893	ホスピス・緩和ケアに関する国際交流事業
②一般管理費	6,004	
経常費用計 (B)	44,754	
当期経常増減額 (A - B)	▲9,479	不足分は前期繰越金等で充当予定

編集後記

「妻の病」という映画が、近隣で上映されていることを知り、観に行ったら。レビー小体認知症の妻に10年間寄り添っている一人の医師の記録映画である。小児科開業医である夫が、認知症の妻の世話をするという事は本当に大変なことであると想像できる。しかし、不思議とそこには悲壮感や、絶望感はなく、むしろ“明るさとユーモア”が漂っているのはなぜだろうか。…

ホスピス病棟が目指しているものも、これと同じではないかと思われた。夫と妻、患者と家族、そして医療者と患者、これらの関係において、“明るさとユーモアの源泉”は、同じではないだろうか。

ホスピス財団が15周年を迎える年となった。ホスピス財団ニュースも28号を重ねるまでになった。

当財団が、これからも、“明るさとユーモア”というホスピスマインドを支える一助になればと願う。

「こういうわけで、いつまでも残る物は信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。」

(聖書 コリント人への手紙第一 13章13節)